

丸亀幻想

2022年11月10日

我部山民樹

1. はじめに

母校丸亀高校を盛り上げる子に役立つのではなかろうかと思い、「かつてに瓦版」とかホームページに、活躍されている先輩や後輩の情報を提供してきた。しかし乍ら、母校がいわゆる有名大学への進学が凋落しつつあるのではなかろうかと懸念する声も聞かれ、我々後期高齢者は何もできないが、目を背けないようにすることは必要だろう。

少子高齢化に伴う人口減で、地方の衰退は避けられない状況であり、すでにその兆候がいろいろと出てきているようだ。単に人口減だけでなく、地方は就学児童の比率が相対的に減少して、就学児童が都会に比して少なくなっているのではなかろうか？そのことで我が母校の有名大学への進学に影響を与えているのではなかろうか？具体的なデータは持ち合わせていないが。

もともと香川県は地元で働く環境が限られているので、働き口を求めて外に出ていくしかなかった。1970年ごろはそのことを念頭に於いて受験対策を考慮した授業を一早く実施していたようだが、その後は徐々に都会の私立高校等の躍進で、受験競争が逆転されてしまったことも念頭に入れねばならないだろう。

高校生のとき、高松高校卒の作家・菊池寛の著書「末は博士か大臣か」というのを知ったが、読まなかった。タイトルだけで思ったことは、これは若者の志を語るだけことだけではなく、地元で働き場所が限られている香川県では勉学に励み、大学の教授になるか官僚を経て政治家を目指すしかないという小説だろうと思いついていた。未だに読んでいないので、本当のところは今も分からない。笑われるかもしれないが。

我が母校は決してガリ勉ではなく、文武両道をうたい、スポーツでも活躍している人材を輩出しているので、活躍している先輩や後輩をホームページや「かつてに瓦版」で紹介し、母校を少しでも盛り上げられたらと思いついているが、今回は母校の懸念されることに触れてみたい。

高校進学の対象人口が今レベルに維持できれば、母校の栄光は続くものと思われる。そのためには丸亀市の2022年現在の人口・100,000人程度を維持していくことが必要と思われる。全国の各自治体が生き残りをかけ、少子高齢化対策として緒施策を展開している。丸亀地区は比較的観光資源にも恵まれている。架空に人物による丸亀市の25年後の姿に関する空想を書いてみた。古希老人(とくに過ぎていくが)のたわごとと思うだろうが、我慢して読んでいただけると有難い。皆様が「ふるさと」や母校を考えるときの一助になれば幸いです。

丸亀高校のモットーは

「丸亀高校、通称「丸高」は県下有数の進学校として、その歴史を刻んできました。文武両道をモットーに知性・人間性どちらも兼ね備えた人材育成を目標としています。

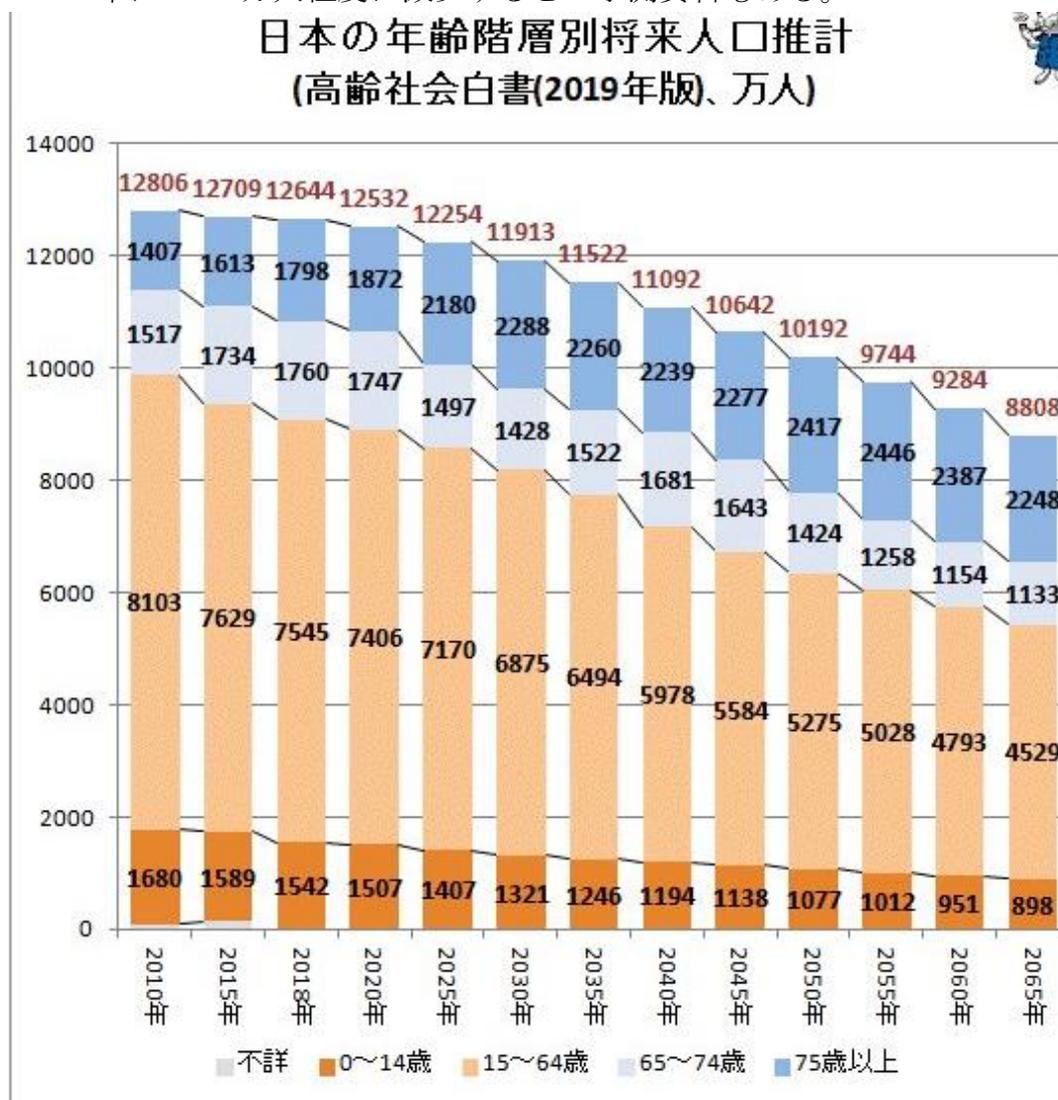
校訓 【終始一誠意】（丸亀高校のホームページより）

2. 丸亀幻想

2-1. 今後の人口推移予想を調べる。

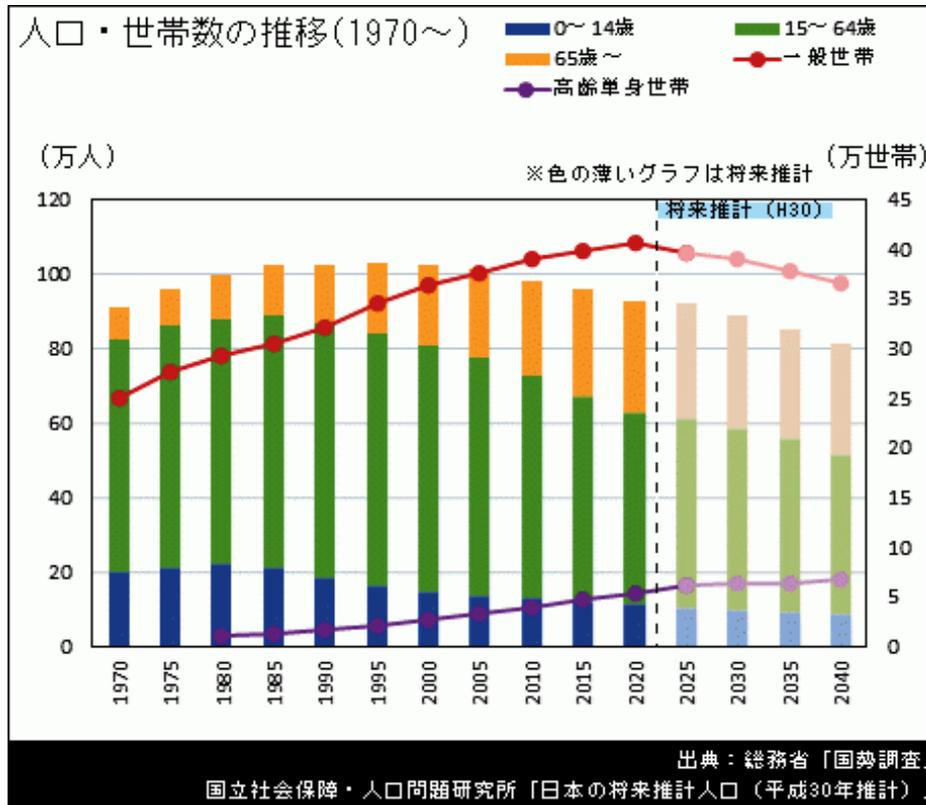
○日本の人口の推移予想

- ・2020年に12532人
- ・2050年に10192人
- ・2080年に6000万人程度に減少するとの予測資料もある。



2050年度の減少率 $10192/12532 = 0.81$ (2020年に比して)

○香川県の人口・世帯数の推移 (1970～)

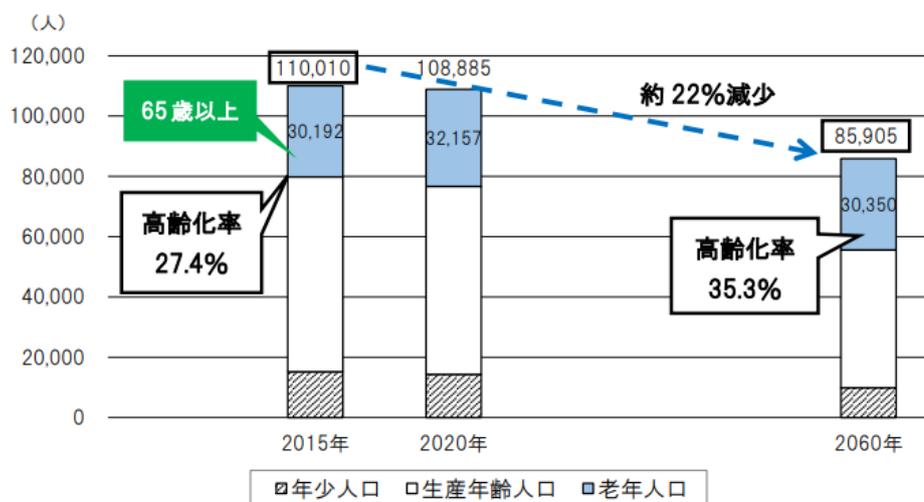


2020年、1,080,000人

2050年、950,000人程度

2050年度の減少率 $950000 / 1080000 = 0.88$

○丸亀市の人口推移



資料：2015年は国勢調査、2020年、2060年は社人研による推計値
(※社人研の推計はコーホート要因法に基づく。以下同じ。)

2020 年、108885 人

2050 年、90,000 人程度

2050 年度の減少率 $90000/108885=0.83$

いずれもそれぞれの根拠は分からないが、約 2 割減となっている。国の見通しは寿命の推移、未婚率、子供の出生率等を根拠にしているようだが、地方自治体の見通しは体制維持できるために、せめて国の人口推移程度にとどめたいとの期待値が含まれているようだ。2022 年現在の人口を維持することを目標に掲げている自治体は多いのではなかろうか。

2-2. 幻想

2047 年の 12 月を迎え、私・香川文郎は百歳を迎えた。随分と長生きをしたものだ。1966 年に丸亀高校を卒業した同期生およそ 650 名のうち、百歳を迎えたのは私の知り限りでは 15 人目のようだ。それ以外の百歳を超える長寿候補者は知らないが、百歳を超える長寿者が随分と増えたようだ。

75 歳を迎えた 2022 年の年夏の話に戻るが、その年に私と妻・淑子は横浜から故郷の丸亀に転居した。当時、長男はアメリカの会社に勤め、サンフランシスコに住んでいた。長女はイギリス人と結婚し、エジンバラに居住していた。子供はこの二人だけである。丸亀に転居したのは淑子がすい臓がんを患い、ステージⅣで余命 1 年と診断されたのがきっかけだった。淑子は丸亀の讃岐富士（飯野山）の麓の農家に生まれ、讃岐富士を見ながら育ったので、讃岐富士に特別の思いを持っていた。余命を告げられたとき、もう一度故郷の讃岐富士が見たいと切実に願ったので、毎日でも見られるように思い切って丸亀に転居することにした。丸亀には香川県労災病院があり、医療体制が整っているので、医療の心配はなかった。

○讃岐富士



飯野山は丸亀市と坂出市の境に位する標高 421.87 メートルの山である。別名、讃岐富士と呼ばれる

丸亀駅から徒歩で 10 分ほどの富谷町の JR マンションが分譲されているのを知り、すぐに契約した。マンションの最上階の部屋からは讃岐富士が眺望できるからだ。富谷町はアーケードが撤去され、シャッターは締められたままで、駐車場や空き地があり、商店街の面影は無くなっていた。

以下は 2020 年頃の写真である。



浜町商店街



富谷町（商店街の面影はない）



通町商店街（夕方の 17 時ごろ）

1970 年、私は横浜市の会社に就職し、それ以来横浜市に居住していたが、横浜市の市街地の建設工事は絶えることなく、市街地全体が目を見張るほどの発展を遂げていたし、とても気に入っていたが、それ以上に港南台にある我が家は特に気に入っていた。そこは市街地に近い割に、たまに野鳥が庭に下りてくるような静寂な環境だったし、山下公園、港が見える丘公園と外人墓地、中華街、元町にも近いので、妻と一緒によく出かけた。それに三溪園も素晴らしく、桜をはじめ四季折々の花木や風景を楽しんだ。ここを終の棲家にしようと話しあっていたのだが。

妻は余命を宣告されてから 2 年ほどで永眠した。

2022 年、75 歳で丸亀に転居した当時、高架駅の丸亀駅に向かって右側にショッピングセンターが隣接していたので、日常生活には困らなかった。駅に向かって

左側近くに猪熊源一郎現代美術館があった。画伯は丸亀高校の大先輩だ。美術館に連なって中央図書館もあった。



当時、丸亀駅前に東横インができ、富谷町にはJRが手掛けたマンションが建設されたばかりだった。JRは生き残りをかけ、「ジェイアール四国ホテル開発」や「四鉄不動産」等の子会社を作って、新規事業に乗り出すと共に駅前の人口を増やすことによって、鉄道利用者の減少を食い止めるための工夫をしていた。特にJR四国のドル箱である予讃線は開発を強化してきたのだ。JR四国は赤字続きで、高松～丸亀、高松～岡山が数少ない黒字路線であり、この路線を重点的に、鉄道を利用する居住者の減少を食い止める戦略を立て、駅前にマンションを建設し、あるいはビジネスホテルを建設し、ビジネスマンや観光客の増加を狙った施策を実行していた。

妻が永眠した後、お城が好きな私は、20分ほど歩いて行ける丸亀城までの散歩を毎日のように楽しんでいたし、丸亀港からは本島にも行くことができた。本島は直島、小豆島、豊島の瀬戸内国際芸術祭のようにはいかないが、古民家を活用した島おこしをしていた。

鉄道を利用すれば、高松寄りの隣の駅・宇多津駅では恋人の聖地「聖通寺山山頂展望台」から、瀬月内や瀬藤大橋を展望できる。恋人の聖地のいわれは知らない。



その次の坂出駅で、坂出は讃岐国府跡が発掘されていて、国司だった菅原道真の足跡を辿る観光ルートもあり、崇徳天皇が祀られている五色台を巡るツアーもあった。



讃岐国府跡 石碑

瀬戸大橋架橋を祈念してつくられた「瀬戸大橋記念公園」がある。坂出駅より、バスが出ているが、乗り合いタクシーも利用できる。記念館やプラネタリウムもある公園で食事もできるので、子供連れで楽しむことができる。

そこには「香川県立東山魁夷せとうち美術館」もある。東山魁夷は日本画の巨匠だ。美術館の案内資料によると

「東山魁夷画伯の祖父が坂出市櫃石島（ひついしじま）の出身で、香川県にゆかりが深いことから版画作品の寄贈を受け、香川県立東山魁夷せとうち美術館を整備した。東山画伯提案のライトグレー色の瀬戸大橋が眼前に広がり、万葉のロマン漂う歴史的遺産や瀬戸内海の美しい自然に囲まれて、心の癒しや憩いの場となっている。」



丸亀駅の松山寄りの隣の駅は讃岐塩屋駅があり、ここからは徒歩で行ける日本庭園の「万象園」がある。



万象園の案内によれば

「丸亀藩主である京極高豊の命により、丸亀城の城下に近い中津の浜に面して造られた。庭園名は森羅万象に由来するとされる。京極氏の故郷である近江の国

琵琶湖をかたどった八景池が掘られ、帆、雁、雪、雨、鐘、晴嵐、月、夕映えと近江八景になぞらえ名付けられた島々が浮かび、橋で巡る事ができる。それとは別に朱塗りの邀月橋も池をまたいで掛かり、園内に彩りを添えている。池に面しては、潮の満ち引きが見られたという観潮楼、その近くには母屋が茶庭に面して建ち、樹齢六百年と言われ傘に似た形を持つ大傘松が広がる。これらの門として、くぐると長生きするとと言われる松寿関が設けられている。現在の庭園は1982年に整備公開された。」とある。

その次の駅、多度津には少林寺拳法総本山がある。日本全国各地のみならず、海外からも修練に来ているそうだ。



また、多度津を經由して土讃線に入った2つ目の善通寺駅には弘法大師の生誕地として有名な真言宗善通寺派総本山が鎮座している。





さらにもうひとつ次の琴平駅では金毘羅さんとして親しまれている、全国的に有名な金刀比羅宮がある。



そして門前には金丸座がある。

○旧金毘羅大芝居（金丸座）とは

「旧金毘羅大芝居」は現存する中では日本最古の芝居小屋。別名、**金丸座**（かなまるざ）とも呼ばれ、国の重要文化財の指定を受けている。中村吉右衛門や中村勘九

郎らの有名歌舞伎役者が年1回、春の定期公演を行っている。歌舞伎役者にとっても金丸座で演じることにあこがれを持っていると聞いた記憶がある。



中野うどん学校もあり、全国から讃岐うどん作りを学びに押し寄せてきている。少し足を延ばすと

「満濃池」や「国営讃岐まんのう公園」も楽しめる。

○満濃池（まんのういけ）

は、仲多度郡まんのう町日本最大の灌漑用のため池である。国の名勝に指定されている。

空海が改修したことで知られ、周囲約20km、貯水量1,540万tである。現在も雨量の少ない讃岐平野を潤わせている。



○国営讃岐まんのう公園仲多度郡まんのう町にある四国で唯一の国営公園。2013年4月に全面開園した。基本テーマは「人間との語らい、自然・宇宙との

ふれあい」である。総面積は 350 ヘクタール (3,500,000 平方メートル) であり、竜頭の丘ゾーン、竜頭の森ゾーン、竜頭の里ゾーン、湖畔の森ゾーンがある。

芝生広場



○二宮忠八飛行館

飛行館は日本の航空機の父・二宮忠八が飛行原理を世界の誰よりも早く着想した緑の地、まんのう町（国道 32 号線沿もみの木峠）にある。



1887 年、忠八は 21 歳で徴兵され、丸亀歩兵第 12 連隊に入隊した。その 2 年後、野外演習の帰り道のこと、仲多度郡十郷村（現在のまんのう町）もみの木峠で昼食をとっている時、ふと霧の中から残飯を求めて滑空してくるカラスに注目する。カラスは翼を広げ、羽ばたくことなくすべるように舞い降りてくる。飛び立つときには何度か大きく羽をあおって、すぐに谷底からの上昇気流に乗って舞い上がっていく。その様子を見ながら忠八は、向かってくる風を翼で受け止め、その空気抵抗を利用すれば、翼を羽ばたかなくても空を飛ぶこと

ができるのではないかと考えた。飛行原理の発見である。その日から忠人は空を飛ぶことの研究に没頭。休みのたびに研究を重ね、ついに1年後、「カラス型模型飛行器」を完成させた。飛行実験では、10メートル飛んだ。その後、自由に空を飛べる二枚翼の「玉虫型飛行器」の実用機の完成を目指し、何度も軍に上申して、日夜研究を重ねたが、あと一步のところまでライト兄弟が有人飛行機を飛ばし、先を越されてしまったのであった。

○周辺のゴルフ場

この地域のゴルフ場は人口の割には多い。瀬戸大橋開業後、京阪神の利用者が増えたためであり、この地域の経済にも貢献している。

プレー費も安価で、同期生らとプレーを楽しむことができたので、自分で決めたプレーの年限を少しづつ伸ばしながら、結果的には85歳までプレーを続けた。このように日常は退屈しなかったし、故郷は魅力にあふれていた。

2032年、85歳を迎え、マンションを売り払い、2022年に〇〇病院が計画し、その後建設した本町通の駅に近い場所にある高齢者用施設に入居した。

2047年12月、もう100歳を迎えた。丸亀は西讃のハブとして変貌し、シャッター通り化した富屋町と本町通りはスマートシティ化が進み、そこにはマンション群が立ち並び、五つのホテルが聳えている。アーケードのある通町は、商店としての機能も残すと共に、レストラン街に変貌し、観光やビジネス目的のホテルの宿泊客の胃を満たし、またマンションの住民や高齢者用施設の入居者も利用しているので賑わっている。2022年頃とは様変わりをした。

競艇場近くにあった海鮮料理の「十徳」もすでに通町に移転した。競艇場は現在も残っている。駅の北側にある「骨付き鳥一鶴」も人気を博している。ビールを飲みながら胡椒の効いた骨付き鳥を食するのは特別の味わいがあり、週に一度は通っている。歯が悪くなってしまったので、もうあまり一鶴鳥を食べられなくなってしまったが。

日本の人口はほぼ2020年の予測通りに1億人ほどに減少している。2022年に比してほぼ20%減だ。2080年ごろには6千万人ほどに減少するとの予測もあるようだが、このままでは予想通りになってしまうだろう。日本人口が最大だった2010年頃のはほぼ1億2千万人に比すると半減である。

少し話がそれるが、明治初頭の日本の人口はおおよそ3千万人だった。「富国強兵」策で、軍人を増やすために政府は「産めよ 増やせよ」と1億人を目標に掲げたが、大戦前にはおおよそ6千万人にしか増やせなかった。それが、意図したわけではないのに、戦後のベビーブームであつという間に1億人強まで増えたの

だ。このことがあらゆる産業に人材を供給できて、経済大国日本を築いた礎となった。総人口 6 千万人というのは大戦前に戻るだけかもしれない。磯田道史さんの講演で、平地の少ない我が国は山間地でも共住しており、世界的に見て平地面積当たりの人口密度は群を抜いているというような話を聞いた記憶がある。里山と呼ばれる山間部に居住されている方が多いということだろうか。

話を戻すと

全国で一律に人口が減少することはない。学校、病院、就活、生活の利便性を考慮して東京都や大阪府とかの大都会に人が移動する。香川県でいえば高松市に人が移動する。すでに 2022 年当時にその人口を受け入れるだけの収容能力があり、生活の利便性がよいからだ。その他の地域は全国の平均比率以下に人口が減少する。定住施策を講じなければ、衰退の一途をたどることになる。主要産業を誘致できればよいが、企業側の目論見もあり、簡単ではない。観光事業に重点を置く施策は有効である。しかし観光資源が乏しく適切な施策を講じられない場合は、目を覆いたくなるような衰退が予想されていた。

人が 2022 年当時以上に大都会に集中し、病院や学校等のインフラ不足が懸念されていたが、幸いその心配もなく、大都会の人口はほぼ横這い状態にとどまった。が、人口減で衰退してしまった地方都市は多い。少子化で学校が閉鎖され、且つ住民が減少したことにより、止む無く病院が撤退した集落は廃れてしまった。定住対策に併せて、重要なのが空洞化した限界集落での有害鳥獣対策である。すでに、有害野生動物が闊歩し始めている。人が狩猟をしなくなってから鉄砲を撃たなくなったので、野生動物は人間を恐れなくなって、無人化した里山に降りてきてしまった。無人化した里山には果樹も残っているし、野生動物増殖の要因だ。放置され、茂った竹林のタケノコは猪増殖の要因だ。それだけでなく高齢化と後継者不足で増えた耕作放棄地の田畑が餌場となり、野生動物の増殖に拍車をかけたので、市街地にも出没するようになってきている。徳島の劔山辺りから高知に渡って生息していた熊も増殖して里山に出没するようになってきたが、香川県ではまだ見かけていない。が、施策を迅速に講じないと県内に熊が出没することも冗談で済まされなくなるかもしれない。

どこの自治体も耕作放棄地対策を行っているが対策が放棄速度に追いつかないし、有害鳥獣対策も行っているが、増殖速度になかなか追いつかないのだ。抜本的な対策が必要だろう。

利便性の良い環境を求めて人が移動するのは仕方のないことだ。少子高齢化に手を打った地方都市だけが、活力を維持することができたのだ。

丸亀は全国的に見て、少子高齢化社会に伴う衰退を免れた数少ない地方都市ではなかろうか？住民は 2020 年頃同様に 10 万人をほぼ死守できている。

少子高齢化対策としては、丸亀、坂出、多度津、善通寺、琴平が一つの市にまとまることが理想だが、新らたな市の名前等で、收拾がつかなくなるのでそれは難しい。例えば「西香川市」では誰も納得しないだろう。

そのかわりに法改正により、西讃岐連合特別区が出来きたので、特別区の自治体とJRとの連携も含めて、駅前開発、観光事業、学校を含む各種公共機関、施設の在り方を模索しながら計画を推し進め、結果として丸亀市は定住化に成功した。丸亀駅近くのマンションから、高松や岡山に通勤するサラリーマンも増えている。このようにして労働人口を維持してきたのだ。

丸亀に雇用促進できる主要産業を誘致できればよいが、なかなか難しい。観光資源を活用する施策が好結果をもたらした。

丸亀駅前のホテルから丸亀市内の観光に、また鉄道で坂出、善通寺、琴平に出かけての観光事業拡大にも成功を収めた。路線バスは廃止され、各駅からはコミュニティバスが走り、生活、通学、観光の利便性が増している。バスは無人の電気自動車で、太陽光パネルも装備している。ワンコインの乗車賃を取ることも協議されたが、お金を管理する人の人件費と、それに従来路線バスに援助してきた資金を流用すればよいので無料とし、利用者の利便性をはかっている。丸亀市内のバスルートは丸亀駅からは、城の近くにある市庁舎、丸亀高校と丸亀城を經由してお城周りの住宅地、労災病院の循環をする。その反対のルートも併用している。坂出駅からは住宅地を循環するバスがあり、五色台へのリムジンバスもある。

車を利用して郊外への買い物や小旅行する人は、車をシェアしているが、郊外に住む人以外で自家用車を持つ人はめっきり減ってしまった。その代わりタクシーやレンタカー利用者も増えた。

自家用車が減ったので駐車場もそれほど必要がなくなり、随分前につくった丸亀駅前の地下駐車場に間に合っている。というより空きスペースができたので、駐輪場としても活用している。今では自転車の利用者が増えたので、自転車の為の道路整備も実施され、便宜を図ってきた。

善通寺駅からは「四国こどもとおとなの医療センターの国立病院機構善通寺病院」経緯で「真言宗総本山善通寺」行きのコミュニティバスがある。国際情勢の変化に伴い、自衛隊も増強されて、善通寺師団関係者は2022年には推定3,000人だったが今や10,000人に増え、国防の強化と共に市の人口減を補っている。

JRは生き残りをかけ、新規事業として「ジェイアール四国ホテル開発」や「四鉄不動産」等の会社を作って、営利の増収を図るとともに駅前の人口を増やし、鉄道利用者の減少を食い止める努力を現在も推し進めてきた。特にJR四国の稼ぎ頭の予讃線や瀬戸内線の強化策を継続している。

坂出、丸亀、多度津、善通寺、琴平間のピストン運転の便を大幅に増やし、生活、サラリーマンの通勤、学生の通学、観光事業の利便性を高めてきた。

近隣自治体との交通利便性も上がったので我が母校の栄光も維持できている。

母校の文武両道も相変わらずである。城山の麓にある野球部の専用球場は室内練習場や筋トレ設備も備えており、近隣の生徒にも好評で、優秀な人材も集まっており、相変わらず活躍している。2030年には夏の甲子園出場も果たし、ベストエイトに進出した。夏の甲子園4回目だ。2000年、春の甲子園にも出場し

た。



【丸亀高校専用球場】野球も勉強も全部するから価値がある。

アルプス電気の創業者の片岡大先輩の寄付金により建設したそうだが、記憶が薄れてしまったが、もう40年も前のことだったのだろうか？

サッカー部からプロ選手も出た。水泳ではオリンピックフランス大会で金メダルを獲得した卒業生もいる。

文化面では卒業生が2030年にノーベル賞を受賞した。人口知能の日本の第一人者の卒業生も相変わらず活躍している。漫画界で活躍した方もおられるようだ。

街づくりの整備計画、ふるさと創生課による「ふるさとの魅力再発見」事業は官民協力して推進していくようだが、貴重な財産である丸亀城を軸に観光事業を掘り起こしていくようだ。

丸亀城は現存12天守（江戸時代またはそれ以前に建設され、現代まで保存されている天守のことである。これ以外に存在する天守には、復元天守、復興天守、模擬天守がある）の一つだ。天守閣は小振りだが、通常の入母屋破風（いりもやはふ）だけでなく唐破風（からはふ）も備えており、四国の現存12天守（丸亀城、高知城、宇和島城、松山城）のうちで最古のである。石垣の高さは日本一であり、扇方の石垣の美しさは類をみない美しさだ。「石垣の城」ともいわれている。

2035年、標高66メートルの天守近くまでの5人乗りの簡易ケーブルカーが設置された。歳をとってからは、一度は城に登ることを断念していたが、ケーブルカーの出現により再開した。城の脇に、こじんまりした茶屋も出来て、讃岐名物

のうどんも食することができる。このオバちゃんがケーブルカーを管理している。好天の時には半日ほど過ごすこともある。



城からは美しい瀬戸内海や街並みを眺望できるが、田畑も遠望できる。果樹園も増えた。荒廃した田畑は見られない。耕作放棄地を比較的安価に買い上げ、その土地を家庭菜園として市民に貸与し、あるいは農業事業の法人に貸与することで、丸亀市はうまく対処できたのだ。後継者問題もあり、農地を個人で所有することに限界が出てきたのかもしれない。後継者のいない地主も草刈りの費用や固定資産税に苦しんでいたのだから、安価であっても売れるときに売ろうと思えば、手放したのだ。農林業振興策が成功したのだ。林業に関しては課題を残したままだが。

30年くらい前だったでしょうか、丸亀市民球場が建設され、元々あった城内球場の跡地は2035年にちょっとした遊園地ができて、いまでは城の周辺は、家族連れで楽しむことができるように変貌している。



嬉しいことに瀬戸大橋記念公園内に西讃地区の県立博物館の建設が建設中である。楽しみだ。

このような自治体の施策で、2020年ごろ、およそ10万人だった丸亀市の人口をほぼ維持することができている。もし、この地域の自治体がこのような適切な施策を実行しなかった場合、果たして我が母校は過去の栄光を維持できていたのだろうか？

(なお、念の為に丸亀市の事業計画や整備計画に関する情報、それにJRの事業方針も一切知らないし、それとは無関係な憶測と想像であることを記しておきます。)

参考資料

- ・ ウィキペディア
- ・ 丸亀高校ホームページ

以上